

第 25 回 卒後研修セミナー 編集後記

「 歯周病患者に対する包括的治療における Soft & Hard Tissue Management 」

学術部 倉賀野 徹 (23 期卒)

平成 31 年 2 月 24 日午前 10 時から第 25 回卒後研修セミナーが日本薬学会 長井記念館(東京都渋谷区)にて行われました。今回の講師には 5-D Japan フェアウンダー北島 一先生をお迎えし『歯周病患者に対する包括的治療における Soft & Hard Tissue Management』という演題で開催されました。

歯周病が進行した口腔内には、歯の支持骨の喪失や歯の欠損が見られ歯列不正、咬合の異常が起こり機能的、審美的な問題を抱えている。機能回復については歯周組織再生療法による支持組織の獲得や矯正治療、歯槽堤増大も含めた欠損部へのインプラント修復などの包括的な治療が有効に働くと述べられました。また歯周病によって多数歯を喪失するケースでは、健全な歯周組織を有する歯列のような審美性を獲得することは困難な場合が多い。審美性の獲得・歯の保存・歯質の保存、これらの目標すべてを達成するゴール設定は無理なことが多い。このとき術者はそれぞれの要素の中でバランスを取り、個々の患者にとって最善と思われる治療のゴール設定を行うことが求められる。そのゴールに到達するためには、様々な状況に応じた戦略を立案し、適切な軟組織および硬組織に対する **Tissue Management** を応用する必要があると述べられました。

今回の講演ではこのように歯周病患者における機能と審美を獲得するための様々な術式と応用する上での留意点についてレクチャーがありました。歯周外科においては長期経過も含めて症例を呈示しながら多数の外科術式を紹介され、再生療法については動画を用いて詳しく術式を解説され、受講者は皆熱心に見入っておられました。

近年インプラント治療後の周囲炎、コンタクトロス等の問題が話題になる場面が多くあると思います。インプラント周囲炎についてのガイドラインは日本口腔インプラント学会からまもなく出されるとのことですが、北島先生はインプラント治療後の天然歯とのコンタクトロスは、治療終了数年後に 57%という高確率で発生している現実を語られ驚愕いたしました。インプラント治療が確立した今こそ確認すべき点として、①天然歯を極力保存する ②インプラント治

療の介入を先延ばしにする ③歯根膜を持つ自家歯牙移植の可能性を探る ④インプラント治療部位の将来の再治療の可能性を視野に入れておく 以上の点を心掛けた計画立案をすべきと述べられました。

北島先生は静岡県磐田市で開業され来年で30年だそうです。歯周組織再生療法の世界的権威 イタリアの Dr.Pierpaolo Cortellini のコースを数年前に受講されたそうです。そこで多くのエビデンスや臨床手技を学んだことで、その後の再生療法を軸とした歯周治療を実践していく上で多大なる影響を受けたとのこと。開業30年を目前にし、5D ファウンダーでありながら尚も向上心を持って真摯に歯科臨床に臨まれているお姿に大変感銘を受けました。

私は2012年から学術委員をさせて頂いておりますが、毎回参加するたびに講師の先生はじめ熱心に受講されている先生方、歯科治療に熱い思いを持つ学術部気鋭の先生方から多くの知識や情報そして刺激を頂きます。また業者展示がいつも多数されており、新商品紹介や器材説明を聞くこともできます。

卒後研修セミナーに参加されたことのない先生は必ずや何かのプラスになる会でありますので、年2回東京で、年1回郡山で開催されています。ぜひ御参加頂ければと思います。奥羽大学歯学部同窓会 HP に卒後研修会というバナーがあり、クリックすると過去の講演も確認できます。

本セミナーが今後も多数の参加者であふれ一層盛り上がり、奥羽大学歯学部同窓会が益々発展いたしますよう祈念いたしております。

